

第7回 大熊町除染検証委員会

日時：令和4年2月7日（月）10：00～

場所：大熊町役場2階 大会議室

1. 課長挨拶

環境対策課長（澤原）

それでは、皆さん、改めましてこんにちは。本日、お忙しい中、わざわざお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

環境省によります高線量地帯の追加対策も、ほぼ終わりに近づいているところであります。町も今年の春の避難指示解除に向けまして最終段階に入っているのかなという感じでございます。まだ今日見ても課題等ございますが、解除に向けまして本日も慎重にご審議いただきますよう、よろしく願いいたします。

2. 議 事

- (1) 大熊町復興再生拠点の除染状況について
- (2) 特定復興再生拠点等における外部被ばく評価結果について
- (3) Dシャトル測定データについて
- (4) 大熊町特定復興再生拠点の避難指示解除について

○配布資料

- 資料1 大熊町復興再生拠点の除染状況について（環境省）
- 資料2 点拠点の除染状況について（環境省）
- 資料3 特定復興再生拠点等における外部被ばく評価結果について（JAEA）
- 資料4 Dシャトル測定データについて（大熊町）
- 資料5 出席者名簿
- 資料6 配席図

○委員長（河津） それでは、第7回大熊町除染検証委員会ということで、午前中からの現地調査について大変ありがとうございます。

今日は、引き続き一応今春の避難指示解除に向けて、検証委員会でどういうふうなことをまとめるかということで、今日もご協議いただければというふうに思っております。

それでは、議事に従いまして進めていきたいと思えます。

第1番目、大熊町復興再生拠点の除染状況についてということで、環境省のほうから説明をお願いします。

○環境省（須賀） 資料1、資料2説明

○委員長（河津） ありがとうございます。

それでは、ただいまの資料についての説明があったわけですが、それに対する質問等ございますか。はい、どうぞ。

○委員（川瀬） 数値の確認をさせてください。

資料1の参考2のところ、1ページ目の測定仮番号の14番になるんですけど、覆土後の空間線量率が、最新の覆土前のやつですか、それよりも上がっているところがあるんですけども、これ何か理由等ありますでしょうか。

○委員長（河津） 参考の2ですね。

○委員（川瀬） はい、参考の2です。

○委員長（河津） 参考2の14番地点ですか。

○委員（川瀬） はい。

○委員長（河津） 1.69から2.59に上がっているというところです。

○環境省（須賀） ちょっと確認をさせてください。

○委員（川瀬） すぐ出ないと思いますんで、確認していただきたいと思えます。

それから、同じページのちょっと下のほうにいて62番から65番まで、ご説明あったかもしれな

いんですけど、これ覆土前、後が同じ数字が入っているという形になっているので、これは何かあるんですか。

○環境省（須賀） こちらは測定日も同じ時期になっているかと思うんですけども、こちらは覆土が完了した形の数値になります。

○委員（川瀬） じゃ、今回新たに覆土をしたわけじゃなくて、前回の時点でもう覆土がなされていたという、そういう理解でよろしいですか。

○環境省（須賀） そうです。

○委員長（河津） これは以前のデータではないの。

○環境省（須賀） この時点では終わっているという形になります。

○委員（川瀬） 最新の空間線量率の欄のところはもう既に覆土が終わっていた数値ということではないですね。

○環境省（須賀） そうです。

○委員（川瀬） あと場所によって、例えば同じページでいくと40番とか43番というのは低下率が非常にちっちゃいなというのがほかにも何点か見受けられるんですけど、これというのは何か理由があるのでしょうか。木の根っこの近くでうまく土のうが置いていなかったとかそんなところなんですか。

○環境省（須賀） 個々のケースいろいろあると思うんですけども、40番につきましては土のう設置箇所になっていまして、なかなかそれ以上手入れが難しいのかなと思います。

○委員（川瀬） はい、分かりました。

○環境省（須賀） 43番は、前回視察いただいた東電の進入路の北側の一番端の地点になっていまして、ちょっとその場、奥のほうはなかなか対策が難しいような状況などもあるのかなと思います。

○委員（川瀬） 分かりました。原因が分かっていたらいいです。ありがとうございます。

○委員長（河津） よろしいでしょうか。ほかに。小豆川委員。

○委員（小豆川） 本日、午前中の視察で北向とか、あとは大熊中学校周辺を一緒に見ていただいたんですけども、例えば大熊中の入り口辺り、坂を下っていった辺りでは容易に3.8を超えている地点が見つけれられたんですけども、今まで環境省さんに出していただいた資料の中に3.8を超えるようなものというのは一点もなかったと思うんですが、なぜこういったものが今からでも見つかるんでしょうか。

○委員長（河津） 環境省、お願いいたします。

○環境省（須賀） 今日、例えば北向のところでも除染にちょっと同意いただいていないような方もまだ若干ではいらっしゃいまして、そういったところでは除染が入れませんので、その中を測定するとどうしても元のままというか、線量が下がっていない状況というのはございます。こちらにつきましては、引き続き同意をいただけるようにアプローチをさせていただいて、速やかに除染を行っていきたいというふうに思います。

それから、そういう場所じゃなくてもホットスポットが見つかるような場合もございまして、まずはこれまでの委員会のご指摘も踏まえて、特に線量が高いところが分かっている部分について、速やかに3.8以下、さらにそれから下げるように、今対応を進めておりましたけども、先ほど申し上げたとおり、さらにその数字を下げて、今3.8を超えているところは分かっているところですけども、そこから下についてもくまなく探して線量をさらに下げて、高いところ、ホットスポットを見つけた上で対応していきたいと思っておりますが、まだ一部そういったところが見つかるというところがあるというふうに認識しております。こちらも調べているところで、まだ足りないところはあると思いますので、引き続きやっていきたいと思います。

○委員（小豆川） 違います。3.8のデータが今までなかった理由は何ですか。一点もないですよ。

○環境省（須賀） はい。

○委員（小豆川） 何でなかった。こんなに簡単に見つけられるポイントがなぜ見つからないんですか。

○環境省（須賀） 測定点を取っている場所については下がっていたんですけども、その周りで下がっていない場所があったということだと思います。

○委員（小豆川） じゃ、今までこれ見つけられなかったのは下手くそだからですか。なぜですか。例えば宅地だったら2万1,000点取っているということですけども、簡単に歩いただけで数点見つかってしまうんですが、なぜ見つけられないんですか。

○環境省（須賀） 今ちょっと調べているところが線量が高いところから順にやっていきますので、ちょっと……

○委員（小豆川） いや、除染の話じゃなくて、なぜデータにないのかということを知っています。いや、前回の除染検証委員会でも3.8以下に全部するから解除をオーケーとしましょうという話になっていたはずであります。11月の30日までにやるよと。3.8を超えていて、11月の30日までに全部終わると。じゃ、これ頑張ってくださいませよということだったんでいいわけなんですけれども、実際こうやって測ってみると、3.8というのはまだいっぱい見えてくるというのが実態じゃないでしょうか。なので、除染に同意をいただけないとか、そういったところのコンテキストがあるのはよく理解するんですけども、そうじゃなくて、もともとの最初のデータにまだ高いところがいっぱいあって、それを拾い切れていないのはなぜですかと聞いているんです。いかがでしょうか。

○環境省（須賀） ちょっとその拾うやり方で追いついていないというところは事実としてあります。

○委員（小豆川） 2万点取っているんですよ。

○環境省（須賀） はい。

○委員（小豆川） 私が測定したのは、これたった700点です。何でそればかりのことができないんでしょうか。不思議でしょうがないです。

○環境省（須賀） 特に今線量の高いところは、我々ガイドラインにも定められている特定の、特に人が生活圏で居住するような場所の代表点を取らせていただいておりますけども、なので2万点測定したときに、例えば宅地の中だと点数が多かったり、道路だったら少しそこが間隔が空いているような形になっておりますけども、その中で例えば道路から脇に少し離れたところなんかというのは測定点から外れてしまいますので、ちょっと今までの報告していた点の中からはそういった高い

所が報告されなかったということだと思います。

○委員（小豆川） 例えば北向の未同意、除染に対して同意をいただけないのか、連絡がつかないのか分かりませんが、とにかくそのうちの玄関前で測って3.8を超えているというのがいっぱいあって、それがうちの前の一点ですら拾い切れていないというのはおかしくないですか。

○環境省（須賀） 測定点でそこを取るかどうかというのは、もうあそこもお宅の前に当たるかどうかになってしまうので、当たらない場合は当然全量を拾えていないということだと思います。

仮にその測定点が未同意のお宅の前にあったということであれば、影響をしっかりと反映できるということだと思いますけれども、そこは個々の状況によって同意取れていない場所があれば、そういう影響が出てくると思います。そうじゃないところは下がっているということになってしまうので。

○委員（小豆川） だとすると、ほかの地点も今の言い訳が通るのであれば、見つけられていない地点は大いにあり得るということですよ、個々の地点だと言うならば。

○環境省（須賀） おおむねいろんな点を取っておりますけれども、そういう場所がないということは言えないと思います。

○委員（小豆川） ないということは言えないということですね。

○環境省（須賀） はい。

○委員（小豆川） じゃ、この議論の大前提となっている3.8がないということがもう崩れているんですけども、それでもいいですか。

○環境省（須賀） いろんな理由があって除染が必要なところですか、除染に入れないような場所というものもございますので、そういった場所については、できるだけ早く対策するようにしたいと思いますし……

○委員（小豆川） その過程は理解します。じゃなくて、なぜそもそもの上がってくるデータに3.8がないんだという話です。繰り返しですよ。そこがたまたまご同意がいただけなかったもので、まだ除染ができないというのは、それは分かります。そうじゃなくて、除染前の数値というのがあるわけ

です。それから今まで見てきたものの中とにかく3.8以下になるよというふうにしたのは、除染ができないというのはともかくとしても、例えば大熊中学校の下のところのように明らかに3.8を超えていて、そこは同意も関係ないようなところだってあるわけですね。それが個々の点だから、ケース・バイ・ケースだからと言われてしまったら、じゃほかの点だって全部ケース・バイ・ケースだからといって高い点が放置されているところが十分に考えられ得るわけです。そうしたら、またこれもし避難指示解除して、多くの方にまた来てもらえるようになったときに、あそこも高い、ここも高いという話になって、またそのためにフォローアップ除染になるということが容易に想定がつくんですけども、それじゃまずいじゃないですか、3.8以下をまず全部潰すということが大前提なので。なので、もっと細かく測定をして、高いところをより積極的に見つけていく方向じゃないと、そもそものデータがおかしかったら、話にならないんじゃないですかということを指摘したいんですが、いかがですか。

○環境省（須賀） 測定点のご指摘は、もうこれまでも何回もご指摘いただいているとおりに思いますので、現状ちょっとそこまでできていないので申し訳ないんですけども、現状のやり方でどう問題を対処するかということについては、今、森林について説明したやり方をやっていますけど、そうじゃない場所でも同じようなことがありますので、それについては速やかに点の間で拾い切れていないところがないように対応したいと思います。

○委員（小豆川） 高いところを見つけて、そこから積極的に潰していくような姿勢でお願いしたいと思います。

○環境省（須賀） はい、分かりました。

○委員長（河津） よろしいでしょうか。

非常に重要な話ですよ。3.8以上のものはないという大前提でやるのかというのは、前の話の中では3.8はもうありませんよという話で実は動いたということが確かだと思っんです。

ただ、今日の調査の中では、やはり3.8はまだまだこれは抜けているなというところが今日はちょっと明らかになった。先ほどの小豆川委員の話の中で、前から3.8じゃなかったということじゃなくて、それは3.8はあれ以上あったということは今までのデータを見れば分かるんですけど、ただその後除染をした後に3.8はなくなりますよという話だったんです。その部分については、やはり見つけられなかったというのが実情だと思うんです、実際に今日のを見ても。そこをどういうふうに取り扱っていくかという話も出てくるんじゃないか。

まず1つは、先ほどの話の中でも3.8をやっぱりしっかりと見つけていくといたしますか、多分皆さ

ん、中まで行って3.8までやれという話じゃ決してないと思います。やはり身近なところで、これから皆さんが帰ったときに動き回るようなところ、生活に密着しているところ、そういったところに3.8以上のものがあるかないかということが、この前の話ではもう今度はありませんよという話で議論しましょうという話だったんですけれども、どうもそうじゃないというのが現実なので、そこは環境省としては積極的に3.8、少なくとも皆さんが住むようなところ、周辺。今日の例えば中学校ですけれど、中学校なんかは人が出入りしますよね。そういうようなところもやっぱり見つけていくというのは当然だと思うんですけれども、その辺についてはいかがでしょうか。

○環境省（須賀） 今まで特にさらに高いところですか森林というのを中心にやってきましたけど、その網をどんどん広げて積極的に高いところは取りこぼさないように拾って対策していきたいと思います。

○委員長（河津） その辺は、ほかの委員の方はどうでしょうか。はい、どうぞ。

○委員（川瀬） ガイドラインに基づいた定点というのを設定して、そこで今出ている点を測定した中では今のところは3.8を超えるところは潰しが、ほぼ終わっているということなんだと思うんですけれども、こういう帰還困難区域の中の状況だということを踏まえていただいて、一部やっただいてはいますが、こういう歩行モニタリングを活用するような形で先ほどからちょっと議論になっていたきめ細かく、少しでも残っていると3.8を超えるような点が出てきてしまうということも踏まえて、少し水みちになって泥がたまりやすいような地形のところとか、そういったところをまずは歩行サーベイみたいな形で細かく通っていただいて、今日指摘があったような3.8を超えるようなポイントがないかというのを確認していただくことが大事なのかなと思います。

今まで帰還困難区域ではなかったところでは、定点での測定で避難指示を解除してきた部分というのはたくさんあるんですけれども、特に帰還困難区域になっていたところはもともとの放射性物質の沈着量が多いということもあって、何か今までよりはきめ細かな対策を取っていかないと、住民の方々に安全に、安心に戻ってきていただくということが難しいということ踏まえて、何らかの工夫をして対策を取っていただければというのが大事なのかなと、私はそういうふうに思いました。

○委員長（河津） ありがとうございます。ほかの委員の方、いかがでしょうか。吉田委員

○委員（吉田） 資料1の8ページの箱ひげ図の書き方なんですけれども、最大値をQ3とQ1の大きさを差し引いて1.5倍して、それにQ3を足して設定しているんですけど、これだとはずれ値が出

てこないんです。それで、今問題にしているのは、まさしく下がらないというか、いまだまだ線量が高いところの話をしているので、全体の傾向を見るためだけにこれを作ってくださいといったのではなく、なかなか下がっていない、最新のところでもこれだけ残っているというところを見せるということが、この図をお願いしますと申し上げた一つの理由でもございます。この書き方だと、何となく低く見えるように細工をしたみたいに見えなくもないので、そこはきちんと箱ひげ図として表していただくようお願いいたします。

何がいいかという、そうするとそこで見えてくるんですね。下がらないところ、にわか高いところはどこかというところがどのぐらいの割合かというところが見えてくる。それは再除染であったり、フォローアップであったり、あるいはもしかすると、ここの場所が線量が高いということを表示するというような、そういった防護措置にもつながることでもありますので、そのところをしっかりと見えるように書いていただきたいと思います。

○委員長（河津） ありがとうございます。環境省、いかがですか。今の話。

○環境省（須賀） 今のご指摘は、はずれ値も記載するというご指摘でよろしいでしょうか。

○委員（吉田） はい。

○環境省（須賀） 分かりました。

○委員（吉田） それがこの意味です。お願いいたします。

○環境省（須賀） 分かりました。

○委員長（河津） ちょっと私も箱ひげ図というのはあまり知らないんですけども、これは、これが一般的な書き方なんですか。そうすると、今言ったはずれ値というのは、この上に飛び出しているという意味。例えば点線の間を通過してもう一つ上に行くということ。

○委員（吉田） そうです。通常は○○○みたいな、それでセットになります。

○委員長（河津） そうすると、はずれ値も分かるという。

○委員（吉田） はい。

○委員長（河津） ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

取りあえず次に進みまして、最後にまたまとめた形でいろいろご意見いただければと思いますので、それでは次の議題の2のほうに移らせていただきます。議題の2、特定復興再生拠点等における外部被ばく評価結果についてということで、これはJAEAさんでしょうか。お願いいたします。

○JAEA眞田 資料3説明

○委員長（河津） ありがとうございます。

それでは、ただいまの資料についてのご説明からご意見やご質問ございましたらお願いいたします。小豆川委員。

○委員（小豆川） 1点ちょっと伺いたいんですが、今の資料の4ページ目のところで屋内の遮蔽係数の実測結果というところなんですけれども、木造で遮蔽の係数が1を超えちゃうというのは具体的にはどういったケースということでしょうか。

○JAEA（眞田） こちらは、これバックグラウンドも込みで空間線量率を出しておりますので、天然の放射線核種を含む場合はあまり遮蔽の効果が少ないので、それによって誤差が大きくなって、要するに線量が低いので0.1以下の数字ですから、そこら辺が影響を受けてしまっていると思われま。このようなことがなくなるように、一応5点の平均というのを一応我々のほうでも算出する際の条件としていますが、それをやはり超えてしまうものもあるということになります。

○委員（小豆川） ありがとうございます。

○委員長（河津） ほかにいかがでしょうか。

○委員（吉田） じゃ、よろしいですか。

○委員長（河津） はい、どうぞ。お願いします。

○委員（吉田） 今、線量低減係数については、前々から問題になっておりますけれども、この4ページに示していただいた線量低減係数のデータが通常、定説でも線量低減係数のパターンで、一方5ページ目ではバックグラウンドを引いたものに線量低減係数を掛けていますので、少し意味合い

が違っているというところがちょっと。

ただ、まだ全体の空間線量率が高いので、そこがあまり利いてこない。だんだん、だんだん低くなってくると、そこがものすごく計算値が合わなくなってくるだろうなというふうに思います、将来的に。

もう一つは、15ページの検証図なんですけど、これはこれでよろしいかと思います。おっしゃっていることというのはこれでいいのかなと思うんですけど、ただちょっとこのデータというのは外部にも公開されるんですか。

○JAEA（眞田） 事業的にはもう既に報告書で規制庁に出させていただいて、規制庁のホームページの報告書を見ていただくと、まずは見ていただけます。学術的にというか、論文は、間もなく公開されることになると思います。

もう一つ、最初のご指摘の低減係数について、我々もそれは課題だと思っておりまして、それによって大分数値が変わってきますので、今回は非常に委員会でも重要なデータになるということが分かっておりましたので、なるべく実測値を使うことにしています。なので、本当にいろんな中で測定したデータを基に、このパターン全てを評価させていただくということでご理解いただきたいと思います。

○委員（吉田） ありがとうございます。

その上でなんですけど、15ページの図は恐らく論文で出す場合には誤解がないと思うんですけども、実効線量の防護量を実用量と比較するに当たって、その説明が全くないというのが非常に気になるので、ここで計算値で出しているのは実効線量という防護量で、これは理論値であって実測ができない数値なんです。それを担保するために実用量という値を使って実効線量での線量限度を超えないとかというのを担保するんですけども、Dシャトルが解析されているのは1センチメートル線量当量を使って実用量としてあらわしているんです。なので、そもそもこれを比べるときに担保するために実用量というのは実効線量よりもイコールが大きいことということがこれはマストなので、それを頭に入れた上で理解しないと、そのまま一般の方に出されると、少し誤解を生むのではないかなと、私自身は理解はさせていただいたんですけども、ちょっとそここのところの説明が一般の方にも分かるようにしっかりと書いていただいたほうがいいのかなと思いました。

○JAEA（眞田） ちょっと余談になりますけど、論文のときにはすごくそこを突っ込まれまして苦労しました。

○委員（吉田） 私がレビュアーでも突っ込みます。

○JAEA（眞田） 検証方法のスライドに測定量の定義を書かせてもらったのですが、推定実効線量とか個人線量という形で、ちょっと小手先で申し訳ないんですけど、そういうような言葉の定義で一応数字を出させてもらっています。もうちょっと分かりやすく、その辺の内容が分かるように余白に書き込めるか、ちょっと検討してみます。

○委員長（河津） よろしいですか。ほかにいかがでしょうか。

私からちょっと1点ですけど、10.26というのは、現場で除染されている方ですよ。その場合に、除染の作業従事者、電力会社に関わっている人でありますよね。その人のデータと一緒に入ってしまっているのはちょっといかがかなという感じはするんですけども。

○JAEA（眞田） 除染作業というよりは建設業ということで設定していただきまして、例えば東電さんの社宅を直すとか、あとは塗装作業をするとか、除染作業ではない一般作業としての計算にしています。

もう一つ言いますと、そこに8時間いるという、ちょっと強引というか、安全なパターンで設定していますので、これが今やここで受ける最大の値だと思っていただいてもいいような形で設定させていただいておりますパターンになります。

○委員（吉田） でも、それって放射線業務従事者の分類で電離則の扱いになりますよね、そうすると。

○委員長（河津） 作業者はそうですね。

○委員（吉田） 作業者は。

○JAEA（眞田） 建設も。

○委員長（河津） 今現在はね。

○委員（吉田） にしないといけないですよね。

○JAEA（眞田） 解除後です。

- 委員（吉田） 今我々が言っているのは公衆被ばくの話ですよ。
- JAEA（眞田） はい。あくまでそういう外で作業をするというパターンということになっています。
- 委員（吉田） それは全く計画被ばくと、それから現存被ばく状況で全く違う話だから、委員長の
おっしゃるとおり、それ一緒にするのはいけません。
- 委員長（河津） それでは、それは誤解を招くといいますか……
- 委員（吉田） 駄目です。
- 委員長（河津） あくまでも電離則のほうでとにかくちゃんと管理されている場所でやっているわけですから。
- JAEA（眞田） あくまで解除後でという条件だと……
- 委員長（河津） その雰囲気という何かの作業という、かなり仮定が入っちゃっているのです。
- 委員（吉田） そのとおり、線量限度で考えるものと現存被ばく状況は参考レベルですから。
- JAEA（眞田） そこはもうよく理解しています。外で作業するという条件で設定していますので、
建設なのか、例えばあり得ないですけども、社宅の外で遊ぶとか、そういうようなパターンにも置き換えられるような形で評価の項目に入れていただけると。職業被ばくは、あくまで
ここで評価していることはありません。
- 委員長（河津） ですから、10.8がかなり高い部分というのは、そういう結果的に作業員を選定している
といいますか、除染作業をやっている人が前提というか、現実的に今やられているような話になってしまうと、少しやっぱり考え方が違うんで、そこの整理はちょっと若干必要かなという感じはしたんですけども……
- JAEA（眞田） ありがとうございます。あくまでこれは作業員として設定してしまいましたけれども、
外で遊ぶとか外にいるというパターンと思って見ていただけるといいかなと思います。

○委員（川瀬） 何だかの屋外活動という意味ですね。

○委員長（河津） そういうことなんですけども、それが適切かどうかというのはちょっと気にはなるところなんです。除染作業という、その場でやっているという、その場の線量を使っているということから考えたときに。

○JAEA（眞田） 除染は常に設定していませんで、あくまで建設的なものを想定したんですけども、外にいるという方のパターンです。

○委員（吉田） すみません、そうしましたら、そのつながりでもう一つお伺いしたいんですけど、17ページの内部被ばくの計算です。これはかなり本当に一例で、誰をこれ想定して内部被ばくの計算をしたのかというのがちょっとよく分からない。今の話だと、ずっと外に出ていらっしゃる方に思いますし、それからこれってソルブル、つまり可溶性のものとして全部計算しているということですね。

○JAEA（眞田） はい。

○委員（吉田） そして、あと外で作業されている人の場合だと、呼吸率の係数がこれラドンの数値で軽作業をする人と、重労働をする人と、全く運動していない人とかなり呼吸率が変わるんです。その算定って出ていますから、それで右辺を変えるべきで、そうすると、これ何の例を計算したのかがちょっとすみません、私にはよく分からなかったんです。

○JAEA（眞田） もうまさにそういうことも考えていただけるような、基本的な濃度情報はありますよということで、あとはそこに計算をかけていただく、例えば呼吸率のほうも働いている人、作業している人の倍になるということはありませんので、倍になったとしても1.3掛ける10の4乗の倍、2.6掛ける10の4乗程度ですので、そういうふうに見ていただければいい。あくまで参考情報です。これで全てを何か評価しているとは思っておりません。

○委員（吉田） 参考情報の割には、ちょっとアバウト過ぎて、粒径もこれ1マイクロなのか0.1なのか、公衆者なのか作業者なのか、それも全然分けていないし、出すにしても少し何の意味があるのかしらという感じでちょっと見ました。

○JAEA（眞田） すみませんでした。じゃ、これはあくまで参考で、この内部被ばくの場合に委員か

ら内部被ばくが入っていないよというコメントをいただきましたので、ちょっと慌てて作りまし
たんですけども、もうちょっとパラメータ精査して内部被ばく評価にするということはやぶさかでは
ないですけども、あまり誤解を生むようなものでありましたら掲載をさせていただきます。

○委員長（河津） ありがとうございます。

いかがですか、ほかに。単に外部被ばくと内部被ばくと比べた場合に、外部被ばくがちょっと低
いですよということを言いたいがためなデータだと思うんですけども、ちょっと厳密に言うとそ
ういう話になってしまうんで、およそ利用するのはちょっとふさわしいかどうかはちょっと別とし
て、いずれにせよ、大分低いんですよという認識で皆さんが思っていればいいのかなという
ふうな感じはしています。

ほかにいかがでしょうか。

それでは、続いて次のほうに進んで、最後全体的にということ、またその場で議論いただけ
ればと思います。

それでは、3番目のDシャトルの測定データについてということ、これは町のほうからですか。

○事務局（志賀） 資料4説明

○委員長（河津） ありがとうございます。

それでは、皆さんの方から何かご意見ございましたらお願いします。宇佐美委員。

○委員（宇佐美） この用紙というのは、測定してくれた方にお返ししているものなんですか。

○事務局（志賀） はい、お返ししています。

○委員（宇佐美） ちょっとコメントなんですけど、期間中の積算線量のところに「おおよそ胸部レ
ントゲン撮影で受ける線量は60マイクロシーベルトになります」と書いてあるんですけども、や
っぱりレントゲン撮影のときって60マイクロシーベルトを多分100ミリ秒とかもっと短い時間で当
てていると思うんです。そういう短い時間で被ばくするのと、やっぱり長い時間、50日間ぐらいで
被ばくするのは、全然生物影響としては違うので、そこはちょっと説明が必要かなと思います。

○事務局（志賀） 書き方がということですね。

○委員（宇佐美） そうですね、ちょっとこれだと誤解を受けてしまうのかなという。レントゲンを

何か1か月間に3回か4回受けたのと同じぐらい被ばくしているんだなということになってしまうので、ちょっとそれは説明が必要だと思いますし……

○事務局（志賀） 分かりました。

○委員（宇佐美） 前回この委員会でちょっとリスコミについても考えていただきたいということをコメントしたんですけれども、やはり何か今後こういう放射線の基本的なことというのは住民の方に知ってもらいたいと思うので、その辺をどう説明していくかというのは考えていただきたいかなと思います。

○事務局（志賀） 分かりました。

○委員（宇佐美） 前回のときに、広報紙でリスコミをやっているというふうにおっしゃったので、広報紙を見てみたんですけど、ちょっと今回避難指示を解除することに当たって役に立つような情報ではないかなと思ったんです。例えばキノコを食べていいのかとか、放射線の不安のこととかは書いてあって、不安にならないために、やっぱりそういう知識を持っていただくので、そういう基本的な知識を皆さんにお知らせするというのをもう少し考えたほうがいいのかと思いました。以上です。

○委員長（河津） ありがとうございます。町のほうで何かありますか。

○事務局（志賀） 今後は基本的なことをもう少し町民に分かりやすく説明できるように広報とかもそうですけど、Dシャトルだと原安協さんとかですけど、今後、検討していきたいと思います、もっと分かりやすくできるように。

それと、レントゲンの60マイクロについても表現の仕方というのを検討したいと思います。

○委員（宇佐美） 書いてもいいんですけど、やっぱり一遍で被ばくすると、長い間で被ばくするのでは生物影響が全然違いますよというのほどここに、同じ紙に書いておくべきかなと思いました。

○事務局（志賀） 分かりました。

○委員（吉田） すみません、よろしいでしょうか。

○委員長（河津） はい、どうぞ。

○委員（吉田） 多分先生はDDREFのことをおっしゃっていらっしゃると思うんですけども、それ以外にちょっと私からのコメントで、事故直後は皆さんが全然放射線の被ばくについて全くご存じないときは、こういう表現で理解をしていただくというのが割と効果的だったんですけども、今10年たちまして、医療被ばくと、それからこういった大規模な原子力発電所の事故から受ける被ばくというのを一緒にはしてほしくないという、ご意見ってかなり大きくて、医療被ばくの場合にはレントゲン撮影などを受けることによって、その受ける本人にメリットがあるわけですね、診断という。放射線治療でもそうですけど。でも、こういった原子力災害によって被ばくというのは、好むと好まないにかかわらず、常にある被ばくについて被ばくしてしまうということで、全く状況が違う中で、ただ数字だけで60マイクロだから大したことないでしょうというような、そういう言い方が非常に不公平であるということで、むしろ放射線に対してのリスク感覚というのが物すごく上がってしまうという、そういった結果というのもたくさん出ているので、もう少しちょっと、ただ知らせればいんだろうではなく、現在分かっている様々な知見を反映していただいて書いていただいたほうが、住民の気持ちを逆なでしないのではないかなというふうに思います。以上です。

○委員長（河津） ありがとうございます。

今実際にDシャトルを貸出し、または受けたときに、そこで住民の方と何らかのやり取りというのは実際にはどなたというか、どこが窓口というふうに決められているのですか。

○事務局（志賀） Dシャトルを貸し出している原安協がデータを回収するため訪問しています。

○委員長（河津） 訪問するんですか。

○事務局（志賀） その際に放射線に関してお話聞いたりとかはしているということで報告は受けています。

○委員長（河津） そうすると、原安協のほうの少なくともかなり知識がある方がやっているでしょうから、そこでコミュニケーションをしっかりと取るということがいつでもやっぱり重要だと思うんです。

今の話の中でもやっぱり書き方、こういうものはそのまま残るので、誰が見るか分からないから、逆にそこに変に書いてあったり、誤解されるようなことが書いてあると、かえってあれなんで、その辺をちょっと工夫されたほうがよろしいと思います。

○事務局（志賀） 承知しました。

○委員（吉田浩子君） もう一つよろしいでしょうか。

○委員長（河津） はい、どうぞ。

○委員（吉田浩子君） このDシャトルの測定結果って非常に重要なんです。計算も非常に重要なんですけども、実測を行うということがやはり重要であるんですけども、今お伺いすると、ほとんどの方があまり、何を測っているというか、玄関の空間線量値を測っている。外に出たときに線量が高いというのをそれは意味がある話で、リアルな数値をやっぴり見ないと、何かこれ見て恐らくリアルだなと思う人はあまりいないのかなと思うんですけど、これってボランティアですよ。お願いしてって。

○事務局（志賀） そうです。

○委員（吉田浩子君） 私も何回かこういうDシャトルとか線量計を配って住民の方に測っていただいたことがあるんですけど、何らかの謝礼みたいなものがあるといいと思います。何かいいことがあるような形でちょっと仕事として引き受けていただくような、この方のみならず、ほかの方々もこのデータを見て参考になるという意味では、もう少し積極的にそういうことをやるというのは考えられませんか。

○委員長（河津） これは提案だと思うんですけど。

○委員（吉田浩子君） 提案です。

○委員長（河津） ちゃんとしっかりやってもらうためには、それなりにやっぴりこちらからも誠意を示すとか、何か謝礼みたいなものがあるほうがいいかもしれないです。それまでしっかりやっぴりもらってデータを活用するということは、私どもは非常に重要だなというふうな感じがしますので、それなりに皆さんに説明する上に当たっても、ぜひそれはちゃんとうまく合うような形でしてもらうように。

○事務局（志賀） 町民の方にはDシャトルを常に持っていてくださいねとお願いはしているんです

けど。

○委員長（河津） ですから、そこに何か1つあると、ちゃんとしっかりとやっていただけるかもしれない。

○事務局（志賀） どうしても行動履歴を書くのがやっぱり手間になるということです。

○委員長（河津） 細かくやろうとすると、かえって非常にあれなんで、多少大ざっぱでもということとで。

○事務局（志賀） 分かりました。

○委員長（河津） あとちょっと29ページといいますか、地区2のほうから気になったのは、非常に先ほどの話では何か農作業をやって高くなるという話をしていましたよね。

○事務局（志賀） はい。

○委員長（河津） 清水地区の2のことで。これ12月4日から12月5日が高いということなんですけども、これは高いのは夜中ですよ。12月4日の午後から12月5日までの午前中なんです、これ見るとちょっと何が原因なのかなという実は。

○事務局（志賀） ちょっとお待ちください。

○委員長（河津） 夜中に外に置いておいたとかそういう可能性がありますね。そのほうが強いとか、現実的に。

○委員（吉田浩子君） 置き始めは4日の土曜日のお昼ぐらいで、次の日のお昼あたりまで置きっ放し。

○委員長（河津） 外に置きっ放し。

○事務局（志賀） 車で帰ってきて、置いて、車の中に置いたままの可能性はあります。

○委員長（河津）　そういうことですね。

○委員（吉田浩子君）　そうすると、じゃリアルでもないということですね。

○事務局（志賀）　その後、車の中から出して身につけていると思います。

○委員長（河津）　その可能性はありますね。

○事務局（志賀）　はい。そのあとは、自宅のほうに置きっ放しをしていたと本人も言っていました。

○委員長（河津）　そうですね、次の日あたりから日中に高くなっているんで、これは作業なんですか。

　ただ、回収するときにはやっぱりそういうことを分かっている聞きながらといいますか、何かそういうようなのだと非常にいいのかなと思うんで。

○事務局（志賀）　一応ヒアリングして、一通りは聞いてはいるんですけども、やっぱり期間が1か月のスパンだと、なかなかもう記憶も定かでなくてという形です。

○委員長（河津）　ぜひ何かシャトルを利用して、協力していただけるような方法をちょっと考えてもらいたいと思います。データの的には、これから使うのであれば余計にいいかと思いますんで、その辺をぜひ考えてみていただきたいなと思います。ほかにいかがでしょうか。

○委員（宇佐美徳子君）　もう一ついいですか。

○委員長（河津）　はい、どうぞ。

○委員（宇佐美徳子君）　さっきのレントゲンの件なんですけど、何か比較するのはレントゲン撮影ではなくて、例えば日本人の自然放射線からの被ばくが大体1年間、2.1ミリシーベルトぐらいとか、そういう情報のほうがいいのかと思いました。

　あるいは、例えば宇宙ステーションに1日いると1ミリシーベルトぐらいかな、被ばくするみたいな、もうちょっと急性被ばくじゃないものを比較に持ってもらったほうがいいのかと思います。

○委員長（河津）　よろしいでしょうか。

それでは、今までのことを踏まえながら全体的に質問とか、またご意見ございましたら。
千葉委員、お願いします。

○委員（千葉幸生君） 先ほどの環境省さんのデータですがメッシュで見ても熊町地区、私はどっちかという熊町に特化しちゃうんですけど、先ほどの中学校のところも、それから熊町地区のところもデータ数が除染前、除染後で全く同じなんです。右にならえて、びたっと同じ数で同じデータで、先ほど小豆川さんが言うように、我々が除染検証委員会の中で大熊の人間として感じるころは、除染検証委員会に提出するためにデータを取っているのか、こういうところで生活したら無用な被ばくをしちゃうよねという優しい気持ちでデータの点数の取り方を変えとかそういうのがなくて、決められたことを決められたとおりにやっつけてこうなったんだから、3.8外しちゃいましたみたいな感じを私は受けます。

先ほど小豆川さんと一緒に午前中、中学校を下りていったときに、確かに小豆川さんが昨日取ったデータでは3.8越えが1か所ありました。「じゃ、一緒に歩いて行きましょう」と言ったら、「ここに側溝があるよね」と言って、じゃ、側溝の先はどうなんだろうと行ったら6.8とか6マイクロになっていた。皆さんもご存じのように、側溝に木の葉や土、細かい砂だとかセシウムに汚染したものが側溝に流れ込んで、側溝ますのところは線量が高いというのは大川原でも経験済みなので、当然そこに興味があって、どうなっているんだろうという気持ちになってもらいたいです。だから、今回も熊町地区をどういうふうにして除染して、どういうふうに解除するかというのは決められたところ、ここら辺は全部で20ポイントだから、こことこことここというふうにして決めて、じゃ除染はこことこことここを測ったら3.8以下でしたというデータを出すためのそういうデータ取りというのは、今日皆さんの話を聞いていて、何か嫌だなという感じもあるし、ぜひ私としては小豆川さんの言う、歩きながらデータを取るという、本当に細かいデータを、人間の動線の中で取るというのはぜひ積極的にやっていただいて、ここ決められたところはここですってバツ印つけたところで測るのではなくて、そこ見て3.4のところとか3.5のところがあったら、その近傍で生活に関わるような場所があるかないかということぐらいをちょっと探してもらって報告いただいたほうが、これから戻る人たちに対して優しい感じがあるんです。どうも環境省さんの取られているデータだとかというのは、決められたことを決められたとおりにやっているだけですから、何か文句ありますかみたいな感じがあるんです。前の除染の仕方でもそうでした。私が文句を言ったときに、「決められたとおりにやっていますから、何か文句ありますか」というふうに言われました。だけど、下がらなかったら土剥げばいいじゃないかという話になれば、土はぐりました。何か仕事のための仕事をやっているみたいで、私の受けている感覚は、どうも大熊町民、戻る人に対して優しくない気がします。

データをいろいろ出すのは、私は皆さんの分析力に非常に頭が上がりたくないところはあるんですけど

ども、ただ先ほどのデータの取り方だとか、見逃したところの話を聞いても、何か優しくないなと思うんで、私は、熊町地区で自分の敷地は立ち入らないでくれ、除染してくれ、解体もしませんが、私には戻れませんと言ったんです。その理由は、当地区の区長さんが戻れないのに、私は戻れませんと言ったんです。今回の特定復興再生拠点の中で、区長が戻れないところというのは、うちの地区しかないんです。だから、はっきり言って戻るわけに行かないんです、それが2020年度中というのであれば、2020年度中は戻りませんということですから、だから解体も除染もしませんというふうに言っているんです。じゃ、そういった場所が先ほど北向で見ましたけど、除染していないところというのはちょっとエリア側に向けて木が生い茂っているところとか、その周りは線量が高いはずなんです。だけど、3.8マイクロシーベルト超えのところは熊町地区にはないんです。だから、そこが先ほどの小豆川さんと同じ意見なんですけど、どこでどう評価しているのかというのが全然見えないし、私は何回か行くと、やっぱり4とか6は実際にはあるんです。家の壁というか、北面の壁のそばとか。だけど、3.8マイクロシーベルト超えのところはありませんでしたと言っているのは何でというのがずっと疑問なんです。だから、そういうところをさっきから言っているように戻る人に優しくなくて、データ作りのためのデータを計測しているのかなという話があるんで、ちょっと最後に話させてもらいましたけど、感覚は大熊町民をだしにして仕事をしている。特定復興再生拠点の人をだしにして皆さんが仕事の生業をしているんじゃないかという、とんでもない言い方して失礼なことを言っていますけど、そんな気がしますので、ぜひもう一回データの取り方は十分にちょっと検討していただきたいなと思います。以上です。

○委員長（河津） ありがとうございます。非常に切実な話だと思います。少し環境省さんに考えてほしいのは、そういうふうな思いをさせているということはやっぱり考えていかないといけないんじゃないか。

私もちらっと聞く段には、例えば田んぼの線量は1か所しか測っていないとか、これ事実ですか。

○環境省（須賀） いや、田んぼ1か所ということはないです。

○委員長（河津） 何か所ぐらい測られているんですか。

○環境省（須賀） 大きさにもよりますけども。

○環境省川道 大きい場所になりますと、メッシュ上に測ったりもしますが、大体10か所ぐらいは測っていると思います。

○委員長（河津） 水口だとかそういうふうにある程度ポイントを決めながら測っているはずだというふうには私はずっと認識していたんです。もうそれはほかから聞くと1か所しか測っていないとかというのは、多分報告は1か所しかしません。やっぱりきちんとやっているということが伝わってなければあまり意味がない話なんです。しかも、せっかくやっているのに誤解されているような話だったら、もっとばからしい話になるかもしれない。

それと、本当に仕事のための仕事みたいになっているというのはもっと悪い話です。それで、やっぱり帰還する人の気持ちにはなかなか立てなくなってしまうので、その辺はぜひやっぱり考えてもらいたいと思うんですけれども、環境省さんのほうでいかがですか、そういった意見に対してといますか。

○環境省（須賀） 測定に課題があるということで本日もいろいろご指摘いただきましたので、今取っている点はもう決まっていますので、そこを埋めるような形でどうできるかというのは、側溝を含めて検討したいと思います。

○委員長（河津） 検討していただくということで、ほかに。
はい、どうぞ。

○委員（吉田） すみません、1つ確認させてください。

昨年10月の20日の委員会の前に事前の説明を受けまして、その際私も測り漏れがないかどうか、見残しがないかどうか非常に気になったのでお伺いしたときに、歩行サーベイをやっていると。そのときに、きちんと定点だけではなく、高いところがないかどうかということも確認はしていますということをおっしゃった上で、その後の検証委員会で、であればこのデータを信じてよろしかろうという話になったというふうに私理解しております。

今日のようなことがなぜ起こるのか、私も非常に疑問に思っています。それについてのご回答で今日全くお答えになっていらっしゃらないかなと思うんですけれども、去年の説明はうそだったということですか。

○環境省（須賀） まず、昨年夏から秋にかけて、その当時森林の除染等まだ進んでいない段階で、手元にあるデータとしては除染直後のデータが主でございました。このデータがそのとき1,000超えるぐらいのデータで3.8マイクロシーベルトを超えているような状況でご報告させていただきました。その後、事後モニタリングも進め、それから森林で高い部分、特に北部の関係であるということで、それと事後モニタリングとは別に測定等を進めまして、あるいは追加除染を進めまして、最終的にその後の段階で221地点ということで剥ぎ取り等を進めて、本日覆土の部分、測定結

果をご報告させていただいた次第でございます。北部の森林の部分、それから屋敷林に相当する部分、あるいは当初3.8マイクロシーベルトを超えている部分につきましてはご説明させていただいたとおり、歩行モニタリング等をさせていただいて、超えている部分を察知しながら対応をその点に限らず、進めておりました。

ただ、本日御覧いただいたような場所が、もともと3.8にもなっていないで、北部の森林等でも最初なっていないところでしたので、漏れがある部分については3.8から3の間に、それとかもうちょっと下もあるかもしれないんですけど、3.8以下だったところで点としては測定されて、その周りで超えているような点があったということだと思いますので、今後特に力入れていかないといけないのがそういった場所を漏れなく点の外側も含めて確認する必要があるのかなと思っております。

○委員（吉田） その結果はいついただけるのでしょうか。

○環境省（須賀） 今、即答できないので、すぐに確認をしたいと思います。

○委員長（河津） こういういろんな課題について、次の議題に入っていますけれども、いわゆる避難指示解除についてということで議論しなくちゃいけないわけですけども、結局それはいつ頃になるかという、例えば一応目標としては春頃ということが町のほうからもう表明されていますけれども、具体的な何月何日ということじゃないんですけども、一応春というふうなことで動いているかと思えます。そういう意味では、そのスケジュール感と、それから今の質問に対する答えといえますか、それをいつ頃までということ是非常に重要な要素になってくるかと思うんですけども、この辺についていかがですか。町のほうから何かご意見ありますか。

○環境対策課長（澤原） 町としては、町長が令和4年春頃に避難指示解除ということで目標を掲げてきたところでございますが、率直に言いますと、できれば今日あたり、方向性、解除の方向で行けるのかどうかということをご議論いただければと、実際そう思っていたところであります。

ただ、今日の委員会ですと、はっきり言ってそういう雰囲気じゃないなと私も感じておりますので、もう一回開催ということであれば、そこはもう一度開催して、十分に議論していただいた上できちんと住民が安心して帰れる環境を、そういうのをやっぱり担保してもらった上で解除ということとしかないのかなというふうに思います。

○委員長（河津） 1つは、この中でちょっと議論していただきたいと思っているんですけども、いわゆる解除についてどの辺まで条件そろえて、課題として先ほどいえばその中で解除後にもいろいろやらずにちゃいけない部分って当然あるでしょうけども、そういったいわゆる条件づけをしな

がら、そちらの方向に持っていくのか。今言われたやつは全部クリアしないと、なかなか解除まで持っていけないのかということをお場で少し議論したいなと思ったんですけど、いかがですか。

○委員（千葉） いいですか。

○委員長（河津） はい。

○委員（千葉） 先ほどから皆さん言われるように、歩行サーベイ、非常に今回の発見にもつながったところですけど、歩行サーベイをやるべきところはやっていただいて、皆さんのデータの信憑性を証明していただきたいんです。メッシュじゃなくて、その場所の歩行データで高いところはこことここですというふうに示していただいて、そこをいついつまでにフォローアップ除染しますという計画を出していただかないと、定点のデータは今日のことで当てにならないということが分かってしまったので、ぜひ歩行データを出していただきたい。特に今の現状、3マイクロシーベルトを超えているような場所は、歩行データ上で3.8を超えている可能性もあり得ますので、ぜひそこをやっていただきたいなと思います。

また、側溝や、ますがあるところは集積している可能性もあるわけですから、そういうところも測っていただいて、清掃することで線量を下げましたとか、それでも結構ですから、ちょっとぜひ細かいデータでデータの信憑性を証明していただきたいと思います。

○委員長（河津） 佐々木委員、どうぞ。

○委員（佐々木） 定点測定で今こういう問題出ているんですけども、これ何回か言った記憶があるんですが、面的に見てここが高そうだという方法というのはないんですか。今の技術だと、それは難しいですか。

○環境省（須賀） 今、環境省のほうには現実的にはちょっと難しく、いろんな考え方があるかと思いますが、今、同じ点を除染前、後、それからその後経過しながら追っていくという形でやっていますので、特定の点をしっかり置くということは西側はやっているところです。なので、それ以外、例えば町のほうでもより細かくやっているような例があって、実際技術的には不可能ではないと思うんですけども、環境省のほうで今そういった対応をしていないので、今から全ての場所についてやり直すというのはなかなか時間的にも難しいんですけども、先ほども指摘あったような、可能性が高いような場所に絞って、どうにか、くまなくできないかというのを考えたいと思います。

○委員長（河津） いかがでしょうか。

やっぱり一番は今のこの中での状況というのは、各場所の3.8以上というのはどうもまだまだありそうだとすることが一番気にされているところだと思うんです。ですから、そこはきちっと最終的に最後になるというのはなかなか難しいわけでございます、そういう意味では。これ物理的に言っても。それにしても、大体どの辺レベルでどのくらいのやつがどのくらいの期間でできますよということ環境省さんのほうで、今なかなかしゃべれないのかもしれないですけども、何か少しこちら側でちょっと判断できるようなことというのは何かありませんか。ただ、今のままですと、もういつまでたっても何か結果が出るまで全然こちらの話が進まないといえますか、多分解除に向けてもどんどん動けなくなってしまうんじゃないのか。

○環境省（須賀） 例えば測定点で3マイクロシーベルトを超えているような点を含むような敷地、道路を含めてですけども、こちらのほうを改めて調べさせていただいて、対応、追加の除染が必要などところについては対策をするということはちょっと確認しないとあれですけど、今月中を目途にと思えますけど、ちょっとそちらも工事のほうの関係も確認しないといけないんですけども。

○委員長（河津） なかなか期間は難しいでしょうけど、見通しはどうなんですか。今見通しすら、なかなか判断できないという状況ですか。

○環境省（須賀） 見通しと申しますと……

○委員長（河津） あとは、要は次に、またこの委員会を開催してやるか、さもなければ、いろいろウェブ会議だったりというのがありますけれども、いずれにせよ、どこかでまたこの委員会でもちょっと評価しないと、今のですと、何となくまだ皆さん納得できないので、これ以上先になかなか進めないなという感じがしたもんですから。

○環境省（須賀） いずれにせよ、これが終わりましたら至急確認しまして、このようなスケジュールで進めさせていただくということとか、あるいは中間報告をどこかでさせていただいたりとか、確認してすぐにご報告はいたしたいと思えます。

○委員長（河津） その辺の流れとして、町のほうではどうですか。大体どれぐらいの目途で、ある程度結論といえますか、方向性を出してくれば、町の流れとしても遅くはなるにしてもそれほど大きく変わらないといえますか。

○環境対策課長（澤原） 春頃という表現ですので、町の目標としましては。ですから、それを考えれば、春というのはどこを指すのかということもありますが、大体5月いっぱいぐらいまで、そこまで避難指示解除に、遅くとももっていければと思います。

○委員長（河津） それは解除させるという意味ですか。

○環境対策課長（澤原） そうです。そこから逆算すると、原子力災害対策本部の決定が、その前に必要ですし、その前に国、県、また町として何日を目標にしましょうかという行為も必要になってきます。ですので、そういうのを計算して、住民に対しての説明会も必要ですので、そうすると年度内というところかなと思います。年度内に方針を出して、できれば4月中に住民説明会という形で持っていければ、その後の解除見込みとかの流れというのは連休明けでも可能なのかなという感じはしますので、ですので例えばさっき須賀課長からお話あったように、2月中に作業をやっ潰してということであれば、3月中にきちんとした結果を示してもらうことで方針が示せるのかなと思います。

○委員長（河津） 大体イメージ的に、やっぱり今月いっぱいである程度のデータが出てきて、3月初めぐらいに委員会で結論みたいな、そういう感じですか。

○環境対策課長（澤原） 3月中に最終報告ができれば。

○委員（川瀬） まずは、今日みたいに3.8を超えるようなところが歩行サーベイで見つかったというのがないと、先ほどお話あった、ちょっと比較的高いようなところの周辺を歩行サーベイなり、ちょっと詳しく調べていただいて、本当に3.8があるかどうかを確認していただく。3.8があったところは、もちろん何かの対策をするという意味では工事の計画を立てたり、発注とかというのも必要になってくると思うので、そういうところは立入規制の対策を取るとかということは今までもやってきていると思うので、そういうところをきちんと洗い出して、こういう対策をして、その後フォローアップなりに除染をしてくというような計画をしっかりと示していただければ、検証委員会としてもある程度の判断をできるのではないかと。3.8を超えるような点が突然ぽつと幾つもあるのが今日の状態ではありそうだというのが分かっているというところを踏まえると、やはりある程度そういう可能性のあるところを潰して、そういうところはありますという事実を調べていただいて、そこはどのような対策をしていきますと。解除の際には、そういうところは立入規制をかけますというやり方で考えていくというのも一つの方法ではあるんじゃないかなと私は思います。

○委員（吉田） 今のご意見に私も賛成です。3.8自体が解除の要件ではなく、帰還の要件でもないということは多分共通で認識していると思うんですけども、ただそういう点が非常に多くて、解除はしましたが、あちこちに駄目なところがあったら、これは解除の意味がやっぱりないんです。やっぱりそれは具体的なところをお示しいただいて、こういうレベルであれば解除して、皆さんがお戻りになられてお暮らしになるスタートを切るのに、大きな差し支えはないだろうというところまでいかないと、この検証委員会としてもオーケーは出せない、個人的にはそう思います。

○委員長（河津） ありがとうございます。どうぞ。

○委員（小豆川） そういった案が出された上で、さらにこちらでも実測をかけさせていただいて、本当に抜かりがないかどうかというのを確認させてみたらどうかと思います。

○各委員 厳しい。

○委員（小豆川） いや、それはそうでしょう。今までないと言ってきたんですから、でもあるんだから、また同じことをしちゃ何の意味もないので、ぜひ先にこちら辺がこういうふうな状況ですということを見せてもらった上で、それに抜かりがないかどうかをチェックして、それで大丈夫だったら、まだ話が先に進められるかなと思います。

○委員長（河津） どこまで確認するかという話はまたあるかと思いますが、ただいずれにせよ、やっぱり住民の方がどういうふうに望んでいるかという部分も当然考慮しなきゃいけない部分でもあります。そういう意味では、解除が前提というよりも解除になるような形でやっぱり我々がいろいろ提言したりするのが私たちの大きな役割だと思えますので、次に向けてというのはなかなかどうも解除するという方向性を今ここで結論出すというわけには、いかないように感じましたので、ぜひやっぱり次のステップに進むためには、そこをクリアして確認するというで。ちょっと私気になったのは、誰が確認するんですか。

○委員（小豆川） やります。やります。

○委員長（河津） それは委員の立場でやるというんじゃなくて、それは基本的には町がやる話で、だから町から頼まれてやるという分にはいいかもしれませんが、基本的にはやっぱり町の仕事だったりもするんで、そこは整理してちょっときちんと、委員会としていろいろな権利をいただけれ

ば、それはできないことはないでしょうけれども、なかなかお金も予算も何もない中ではつきり動くわけにもいきませんので、そこはぜひ町の方針の中で確認すべき、小豆川先生にもお願いするというのは、これは町のやり方としてはあると思います。そこをひとつ考えてもらいたいと思います。あと時間的なこともありますので、そこはぜひ考慮して、関係者も、そこはご努力いただきながらということによろしいでしょうか。やはり3.8がなくなる話だったのが見え過ぎていまして、ちょっと一番はそういうこともありますんで、ぜひその辺は環境省にはちょっとご努力いただきたいなというところはあります。

それぞれ皆さんにもひとつ考えていただきたいのは、時期的な面もありますんで、どういう条件提示をしながら最終的に結論を出していくかということが非常に大きな柱なので、ぜひその辺は考えていただきたいなというところはあります。ある程度見えてきてる部分もありますんで、やり方とか、その辺はもしあれだったら事務局と相談しながら、一応最終はこんな形ですよという、いわゆる素案みたいな形も少し皆さんに合わせて、考えてもらえればと思いますんで、その辺は後からまた事務局と相談して、皆さんのほうにご確認したいと思いますんで、その節はよろしくお願ひしたいと思います。

ほかに何かございませんでしょうか。

それでは、復興庁さんのほうから今日の話の中で何かありますか。特になければ、何かもし気になるところがあれば。

○復興庁（粕谷） 特にありません。

私のほうからはございませんですけど、解除の方向につきましては、今日のご議論を踏まえて、また町と相談して参ります。

○委員長（河津） ぜひ町のほうと議論していただければと思います。

町のほうから何かよろしいですか。

○環境対策課長（澤原） はい。

○委員長（河津） それでは、どうもありがとうございました。大体時間どおりということですが、なかなか非常にいい議論ができたのかなと思います。

それでは、司会進行のほうを事務局のほうにお返しいたします。よろしくお願ひします。

○事務局（志賀） 長時間大変お疲れさまでした。

閉会の挨拶を澤原より申し上げます。お願ひします。

○環境対策課長（澤原） それでは、本日、午前から長時間にわたりまして現地視察等やご議論をいただき、ありがとうございました。

今日いただきました課題につきまして、環境省のほうに回答をいただきまして、次回の開催、そちらもどうするかという、委員長ともご相談しながら、またご案内差し上げたいと思いますので、その際には大変申し訳ございませんが、ご協力方お願いいたします。

本日は、長時間にわたりありがとうございました。